



# 各プロジェクト校の取組



## 単元内自由進度学習を基にした授業改善 1年生算数科「どちらがおおい どちらがひろい」より

1年 さんすう 「どちらがおおい どちらがひろい」より

学しゅう けいかくひょう 名冊

学しゅうのながれ (5じかん)	学しゅうのほうほう
① 「どちらがおおい」～水のかさくらべしよう～ ② 酒あて：どちらがおおいか。くらべたあかかんがよう。 ③ くらべようかしよ38～41ページ	お水のかさくらべコーナー ワークシート12345 おチャレンジもんだい クレヨンアッププリント
④ 「どちらがひろい」～水のかさくらべしよう～ ⑤ 酒あて：どちらがひろいか。くらべたあかかんがよう。 ⑥ くらべようかしよ42～43ページ	お水のかさくらべコーナー ワークシート67 クレヨンアッププリント おじゃんりゲーム

(学しゅうのほうほう) 水、どちらにしてもおおいませんが、お水のかさくらべしよう、お水のかさくらべに挑戦して、くらべようしてみよう。

リフレクション

①	②	③	④	⑤
何をするか	何をするか	何をするか	何をするか	何をするか
どちらがおおいか、くらべたあかかんがよう。(コーナー)	どちらがおおいか、くらべたあかかんがよう。(コーナー)	どちらがおおいか、くらべたあかかんがよう。(コーナー)	どちらがおおいか、くらべたあかかんがよう。(コーナー)	どちらがおおいか、くらべたあかかんがよう。(コーナー)

児童が学び方(順番・人数・方法等)を選択、計画できるような環境整備



体験する場所と体験したことをまとめる場所を明確にすることで、児童にとって分かりやすく、安全に学習できる環境に



チームで教材研究！単元を通して「何を学ぶのか」を焦点化した授業づくり

児童同士、児童と教師の良好な関係性が主体的な学びを支える

## 授業UDの考え方を踏まえた授業改善 6年生体育科「シッティングバレーボール」より

交流及び共同学習の目的の2つの側面

生涯にわたる豊かなスポーツライフを実現する観点

**交流の側面**  
相互の触れ合いを通じて豊かな人間性を育む

**共同学習の側面**  
教科等のねらいの達成

「する・みる・支える・知る」  
することだけでなく、みること、支えること、知ることなど多様な関わり方について考える。

- ルール**
- 1チームコート内に4人づつ入る。
  - 7レーは全て蹴った状態で行う。
  - 蹴った状態から移動してもよい。
  - チームでボールを蹴るときは相手に蹴られる。
  - 1人が連続でボールに触れては×。
  - チームでなら両脚ボールに触れてもよい。
  - 黄色の線と対峙し合う。
  - アタックを打つ人にパスをする前の人は蹴りボールをキックしてもよい。
  - ボールを相手コートに蹴ることができる。蹴のプレーヤーだけ。
  - サーブは相手のプレーヤーが行う。
  - 7レーごとにボールを相手コートへ蹴るとポジションを変わる。

ルールの明確化



視覚化

パス	アタック	得点
正	正	正
正	正	正
正	正	正
正	正	正
正	正	正
正	正	正

焦点化

全員が参加できるように、ルールや教材を工夫することによって、全員がチームに貢献

得点だけでなく、パスやアタックの回数など、みる視点を明確にし、ゲームを視覚化

お互いの尊重を基盤に、自分の得意(音楽・プログラミング)を生かし、自らゲーム運営を支える。後に参加も！

ゲームの記録を分析し、自チームの実態を把握し、改善策を協議



共有化

教材研究

～本プロジェクトの学びを通して～

主体的に学ぶ児童の育成を目指す授業改善には、授業の3K(「教材研究」「環境整備」「関係性」)が基盤であると整理した。これらの取組を通して、児童を理解する「児童観」、授業を設計する「授業観」が大きく変容し、そのことにより学校全体の取組として進め、児童及び教職員の学びを深めることができた。

環境整備

授業の3K

関係性



# 呉市立昭和南小学校の取組

あたたかい  
集団づくり

考える  
授業づくり



ほめる場・  
認める場  
の設定

安心して授業に臨める雰囲気醸成

個に応じた  
支援

すごい！  
スーパー  
1年生だね。

えー！これ次の  
次に勉強する  
内容だよ！  
すごい！なん  
で知ってるの？！

大丈夫よ！  
大丈夫！

特性に応じた支援具の活用

授業参観シートの作成

写真掲示板の設置

学習形態  
の工夫

ほめほめ言葉をたく  
さん見つけましょう。

授業者のほめ  
言葉を記載し、  
協議で交流。

学習のペースや内容、方法等を自己決定

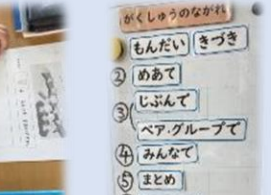
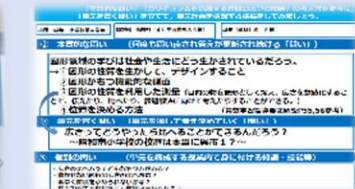
問いの工夫

児童の活躍を認め、  
次への意欲向上に

生活に即した単元を貫く問いの設定で児童の意欲アップ

UDの視点

授業に「視覚化・焦点化・共有化」の視点を取り入れみんなにわかりやすい授業に



氏名	学年	性別	誕生日	学年	性別	誕生日
山田 太郎	1年	男	03/15	山田 太郎	1年	男
山田 太郎	1年	男	03/15	山田 太郎	1年	男
山田 太郎	1年	男	03/15	山田 太郎	1年	男
山田 太郎	1年	男	03/15	山田 太郎	1年	男
山田 太郎	1年	男	03/15	山田 太郎	1年	男
山田 太郎	1年	男	03/15	山田 太郎	1年	男
山田 太郎	1年	男	03/15	山田 太郎	1年	男
山田 太郎	1年	男	03/15	山田 太郎	1年	男
山田 太郎	1年	男	03/15	山田 太郎	1年	男







# 竹原市立賀茂川中学校

【指導の個別化】 単元・授業における共通の目標達成に向けて

- ① 自分の段階に合った課題を自己決定する
- ② 課題に取り組む
- ③ 学びを振り返り改善点を見付ける ⇒ 新たな課題設定へ



## 保健体育科「水泳」

自ら学習を調整

- ① 自分の課題を決める。
- ② 課題に合ったコースを選択して練習する。
- ③ 泳ぎ方を振り返り自分のフォームの改善点を見付ける。

自分に合った課題を再設定

自己選択

自己選択

のびのびがうまくなりたいたいコース	200m-400m記録に挑戦コース
泳ぎがうまくなりたいたいコース	200m-400m長い距離に挑戦コース
泳ぎの記録に挑戦コース	泳ぎの長い距離に挑戦コース



### クロールー達の動き

### 息継ぎ

### キック



## 保健体育科「持久走」

- ① 自分の課題を決める。

自己選択

学習の目標: 自分に合った効率のよい走りを意識し、前回の記録を越える!!

前回の記録 (4分47秒)



今日は姿勢の頭の位置を意識して走ります!

呼吸法  
姿勢  
腕振り  
着地  
ピッチ  
ストライド

自己選択

頭の位置 姿勢 背筋 着地 呼吸 リズミカル

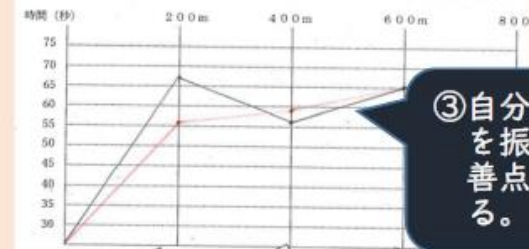


自分に合った課題を再設定

- ② 結果をグラフ化し記録を比較する。

自ら学習を調整

ランタイムをグラフにしてみよう!(1セット目は黒色、2セット目は赤色で記入しましょう。)



- ③ 自分の走り方を振り返り改善点を見付ける。

## 数学科「平面図形の見方」

自分に合った課題を再設定

自ら学習を調整

- ③ 課題を解決するために必要な既習事項をICTで振り返る。

- ① 自分の課題を決める。

自己選択

- ② 選んだ課題に取り組む。

多様な課題



③  $\angle AOB$  の二等分線

④  $180^\circ$  の二等分線 (点Pを通る直線)

# 大竹市立玖波中学校の取組

研究主題「自らへの自信をもち、主体的に学びに向かう生徒の育成」  
特別支援教育の考え方を生かした授業改善の実践

**特別支援学級：**  
**【個に合わせた支援】**  
十分な実態把握、個の特性に合わせた学習のルーティーン化と生徒が楽しみながら学習できる授業の構成により、生徒は落ち着いて参加した。

個の特性に応じた  
個別最適な学び

特別支援学級

個別最適な学び  
(フォローアップ生徒)

通常の学級

ユニバーサルデザインの視点を生かした  
授業づくり (焦点化・視覚化・共有化)

通常の学級

**数学科：【自由進度学習】**  
論理的に考察する力を養うために、観察や操作、実験などの活動を通して空間図形の見方や考え方を育んだ。自己決定の場面や学習コーナーを設定し、生徒の興味関心を高め理解を促した。



**外国語科：**  
**【自己選択】**  
個々の実態に合わせたパフォーマンス課題を設定し、複数の課題から自己選択をして主体的、対話的な学びに。苦手意識を持つ生徒は安心して授業に取り組めた。



**国語科：**  
**【プロジェクト学習】**  
単元のゴールイメージを持たせて自分で計画して取り組むプロジェクト学習を行った。学習課題や学習方法を選択制にすることで主体的に学べた。フォローアップ生徒に教員が効果的に支援し、全員の生徒がB評価に到達した。

**保健体育科：**  
**【視覚化、焦点化】**  
ICTで自分の体の動きを視覚化焦点化し、「自分の動きを見ること、改善するポイント」など、自分の体の動きを、他の人からアドバイスしてもらい、考えることができた。ポイントを押さえて技の改善が見られた。



**美術科：【視覚化】**  
授業の流れを視覚化し、見通しを持たせる。時間の流れがわかるので「主体性な学習」につながり、意欲的に発表を行う生徒が増加した。



**理科：【共有化】**  
ICTを効果的に活用し、考えたことを短時間で他の生徒と共有ができた。他者の異なる意見や表現の仕方を効果的に学習できた。





## 研究主題

『主体的・協働的に取り組める生徒を育成する授業づくり』～ユニバーサルデザインの視点を活用して～

## 理解を促すユニバーサルデザインの視点を活用した工夫

### 焦点化

授業内容の本質を見極め、構成をシンプルに

「助言」「手順」「なと」「仲間」「助け合い」「手順」(2020)

「手紙の書き方」「お礼状の書き方」(2020)

本時のねらいを具体的に示し、何をすればよいかわかるようにする。

音楽を形作っている8つの要素から、強弱、リズム、音の高さ、速度について1つずつ絞って鑑賞させることにより、苦手な生徒も聴き取ることができる。

単元を貫く問いを振り返り表に提示し、いつも見直しをもてるようにする。

### 視覚化

口頭説明では分かりにくいところを見る化

板書とワークシートが一致するように構造化する。

ポイントとなる語句を色分けて示す。

練習方法と場の使い方の例を図で示す。

### 共有化

グループへ、全体へ自分の言葉で説明する

6 班 紅白もち・梅干し

理由  
① 見た目に印象をつけるため、めでたくない  
② 赤しそで染めればいから

チームで話し合い、課題解決を行う。

ジャムボードを活用することで、いつでもどこでも他者の考えを共有できる。

板書の写真をジャムボードをクラスルームに残すことで、授業内容を振り返ることができる。

## 参加を促すユニバーサルデザインを生かした環境づくり

### 時間の構造化

本時の流れ

1. レポート作成 → 提出
2. まとめ アラトに記入
3. 問題を解く クラウド 残りは宿題

本時の流れ

1. 全体 (復習)
2. 体験
3. グループ (考える)
4. 全体 (まとめる)
5. 振り返り
- 6.

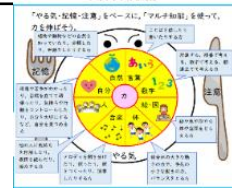
授業の見通しが見える形で示す

### 刺激量の調整



前面掲示はシンプルに最小限

### 多様な学びの支援



マルチピザ(それぞれの得意な学び方で学ぶ)、選択場面のある授業展開

### 主体的な学びの推進



主体的に家庭学習に取り組むための手立てとして課題の量を調整

# 廿日市市立宮内小学校 ～特別支援学級の取組を学校全体に～

## 特別支援学級

### 【教室環境の構造化】

#### 個別スペース



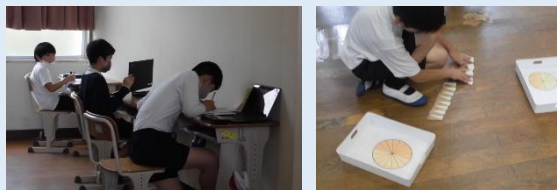
#### 協働スペース

三段ボックスやロッカーを利用したワークシステムを構築。児童実態に合わせて教材・教具を用意し、学習環境を整えることで、自由進度学習にも挑戦！  
→年度初めの校内研修に位置付けることで、学校全体で考え方を共有。

#### クールダウンスペース



特別支援学級に在籍する児童が、自ら考え学ぶ合うために教室環境を見直し、使用頻度の低いものは徹底的に無くし、個別のスペース、協働のスペース、クールダウンのスペースを設置。



## 全学級

### 【2つの支援】

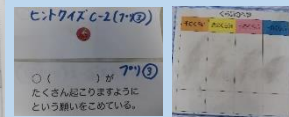
- ・支援を要する児童への手立て
- ・早くできる児童への手立て

学習計画表を見ながら、それぞれが自分のペースで学びを進めている。支援を要する児童へは、難易度や問題数を調整したプリントやヒントカード、学習コーナーを促しつつ、個別支援を行うことで、自ら学びを進めていけるように工夫した。

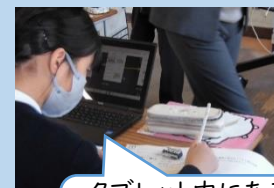
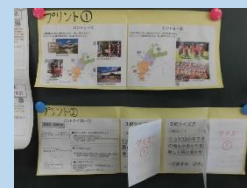
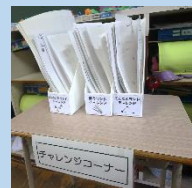
学習目標	達成状況	達成率	達成日
1 単位正方形、正方形、長方形、平行四辺形、三角形、台形、円、楕円、正多角形、五角形、六角形、七角形、八角形、九角形、十角形、十一角形、十二角形、正多角形の拡大と縮小の性質を説明できる。	○	100%	10/15
2 図形を拡大縮小したとき、対応する辺の長さの比が等しくなることを説明できる。	○	100%	10/15
3 図形を拡大縮小したとき、対応する角の大きさは等しいことを説明できる。	○	100%	10/15
4 図形を拡大縮小したとき、対応する辺の長さの比が等しくなることを説明できる。	○	100%	10/15



実際に操作することで理解が深まる



学習を早くどんどん進めていける児童には、チャレンジ問題やICTの活用、学習コーナーの充実を図ることで対応。わくわくする選択肢を用意することで、楽しんで学んでいる姿が見られた。



### 【学び方の選択肢】

- ・一人で、友達と
- ・机で、廊下で、
- ・教室を移動して
- ・プリントで、ICTで
- ・学習コーナーで

自分のペースでできるから楽!



困ったときに友達に聞けるからいい!

廊下でちょっと落ち着いてやろう



タブレット内にあるヒントを確認しながら学習を進める

次は、この問題をやってみよう!

## 特別支援教育の考え方、ポジティブ行動支援の考え方を生かした自由進度学習

### 【日常の取組】

### 【児童とのかかわり】

#### 【成果】

- 学校が楽しいと答える児童が増えた。
- 自分で学習を進めることができる児童が増えてきた。
- 特別支援教育の考え方を生かし、児童一人一人を意識した授業づくりができた。
- 自由進度学習に取り組むことで、教材研究が深まった。
- 教師が、意図的に褒める機会が増えた。





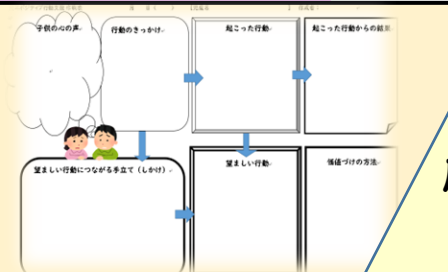




個に応じたPBS

ポジティブ行動支援作戦表

・応用行動分析の考え方を基に、支援を要する児童に具体的にどのように取り組むか、一人一人の教員が作戦を立てるシートを作成。



個に応じたPBS

学級で取り組むPBS

「やりたい!」があふれる授業

・個別最適な学びを目指し、「授業のUD化」「選択肢のある授業」や「ICT活用」などの、児童にフィット感がある活動を仕組む。



学級で取り組むPBS

学校全体で取り組むPBS  
スマイルハッピーツリー

・学校中に児童の望ましい姿を増やすことを目指し、学校全体で目標となる望ましい行動を共通認識のもと認め合う活動。



学校全体で取り組むPBS  
視覚的な賞賛

・望ましい姿を子供たちへ視覚的に価値付けられる環境。



学校全体で取り組むPBS  
委員会活動

・望ましい姿を子供たちが考え、生活目標達成のための手立てを実行した。



学校全体で取り組むPBS

PBSを支える取組

特支Co通信

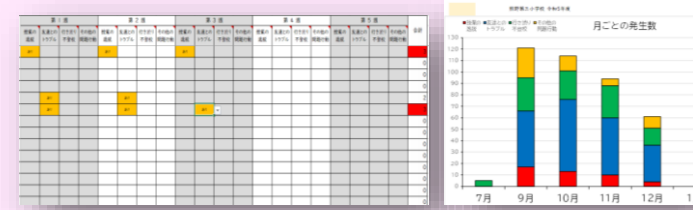
・学校中に児童の望ましい姿を増やすことを目指し、学校全体で目標となる望ましい行動を共通認識のもと認め合う活動。



PBSを支える取組

データ記入

・望ましい行動を確認するための客観的なデータ。



# 安芸太田町立加計小学校

## 課題

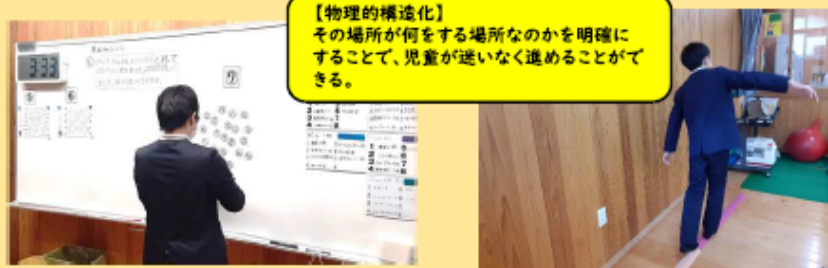
- ①特別支援学級及び通級指導教室の学習環境・授業の進め方が個に応じたものになっていなかった。
- ②個別の教育支援計画及び個別の指導計画の作成・活用が不十分であった。
- ③通常の学級での授業の中には、児童の実態や学び方の多様性に応じられていないものがあった。
- ④教職員の特別支援教育の視点を踏まえた授業改善に向けた意識に差があった。

## 成果

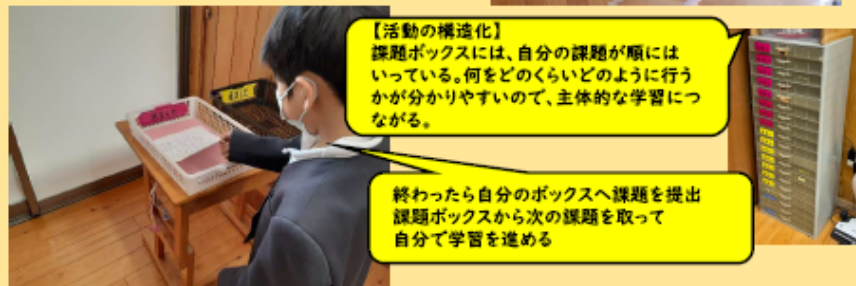
- ①授業や環境を構造化することで、児童の学びに向かう主体性が向上した。
- ②専門機関の協力を得ることで、実際の支援場面を意識して個別の教育支援計画等作成の視点をもったり正しい記載方法を知ったりすることができた。
- ③「児童が学習の進度や内容を選択・調整できる形態を取り入れた授業をつくる」ことで個の多様性に応じることができるという授業者のマインドセットができた。
- ④特別支援教育の視点を取り入れた授業改善を全ての授業者が行い、自らの実践を俯瞰し交流することでさらなる授業改善につながった。

## ①多様性に焦点を当てた見直し

### 通級指導教室の環境整備



【物理的構造化】  
その場所が何をやる場所なのかを明確にすることで、児童が迷いなく進めることができる。



【活動の構造化】  
課題ボックスには、自分の課題が順にはいつている。何をどのくらいどのように行うかが分かりやすいので、主体的な学習につながる。

終わったら自分のボックスへ課題を提出  
課題ボックスから次の課題を取って  
自分で学習を進める

### 個別の教育支援計画及び個別の指導計画の見直し

#### 校内研修

町特別支援教育推進協議会

「個別最適な学び」推進プロジェクト

巡回相談（センター的機能の活用）

専門機関の積極的活用

「合理的配慮」の明記・共有

誰が見ても方向性が分かる計画に

個別の教育支援計画及び個別の指導計画の記載内容の積み分け

## ②通常の学級の授業改善

### 加計小版「セパレートマイプラン学習」

【一斉指導による基礎的な事項を  
おさえた後の自由進度学習】

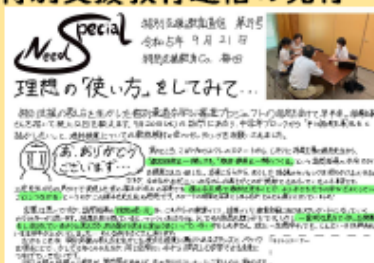
児童の実態に合わせて、単元の前半は一斉指導で基本的な事項を指導者と児童同士で共有する。単元の後半は自由進度的な形態で、自分のペースで主体的な学習へ。

【チームで取り組む授業づくり】  
「子どもたちだったらどう書くかな・・・？」と児童の目線に立って様々な立場から活発な意見が飛び交う教材研究に



【ワークシートも  
児童目線で】  
ワークシートは  
図の配置や言葉選び  
一つ一つにこだわって  
児童目線で作成

### 特別支援教育通信の発行



情報の周知

話題の提供

研修の報告

町内へ還元

### 各授業者の実践提案



ノウハウの共有だけでなく、  
自分自身の実践を俯瞰し、  
成果や課題、改善点を明らかに

教員自身も  
「個別最適」な研鑽に





特別支援教育  
コーディネーター研修で  
使用した様式を活用!

内容	担当者	実施予定日	進捗状況	備考
1. 特別支援教育の現状把握	180-181	①・②		
2. 特別支援教育の課題把握	180-181	③		
3. 特別支援教育の課題把握	180-181	④	アイ	カキ
4. 特別支援教育の課題把握	180-181	⑤		
5. 特別支援教育の課題把握	180-181	⑥		
6. 特別支援教育の課題把握	180-181	⑦		



## Check (評価)

検討した支援策が有効であったかどうかを評価し、個別の指導計画に加筆や修正を行った。

## Assessment (実態把握)

学年で特別な支援が必要な生徒について実態把握を行った。「生徒の実態」、「要因・背景」を探り、特に強みが生かされるような「支援策」を立案した。個別の指導計画を作成し、検討した支援策をどの教科でも活用できるようにした。

## Plan (計画)

作成した個別の指導計画を基に、教科担任や学年担当で単元計画等をチームで協議した。社会科では、課題意識をもてるよう、パフォーマンス課題を設定した。

## Do (実施)

授業では、生徒に「自己決定」や「自己調整」する機会を設定。生徒が多様な選択肢の中から自らの意志で学習を進め、学びを見つめ直し、よりよい学び方へと改善していく。社会科では、パフォーマンス課題の解決に向けて、教科書やICTから情報を集めたり、友達と協働したりしながら学習を進めた。

## A

実施状況 (元:尾道市立高西中学校) 学習指導要領

社会科(地理) 自然環境はそこに暮らす人々の生活にどう影響するの?

単元	単元コース	本単元コース
1	1	1
2	2	2
3	3	3
4	4	4
5	5	5
6	6	6
7	7	7
8	8	8
9	9	9
10	10	10
11	11	11
12	12	12
13	13	13
14	14	14
15	15	15
16	16	16
17	17	17
18	18	18
19	19	19
20	20	20
21	21	21
22	22	22
23	23	23
24	24	24
25	25	25
26	26	26
27	27	27
28	28	28
29	29	29
30	30	30
31	31	31
32	32	32
33	33	33
34	34	34
35	35	35
36	36	36
37	37	37
38	38	38
39	39	39
40	40	40
41	41	41
42	42	42
43	43	43
44	44	44
45	45	45
46	46	46
47	47	47
48	48	48
49	49	49
50	50	50
51	51	51
52	52	52
53	53	53
54	54	54
55	55	55
56	56	56
57	57	57
58	58	58
59	59	59
60	60	60
61	61	61
62	62	62
63	63	63
64	64	64
65	65	65
66	66	66
67	67	67
68	68	68
69	69	69
70	70	70
71	71	71
72	72	72
73	73	73
74	74	74
75	75	75
76	76	76
77	77	77
78	78	78
79	79	79
80	80	80
81	81	81
82	82	82
83	83	83
84	84	84
85	85	85
86	86	86
87	87	87
88	88	88
89	89	89
90	90	90
91	91	91
92	92	92
93	93	93
94	94	94
95	95	95
96	96	96
97	97	97
98	98	98
99	99	99
100	100	100

## 1年間の取組を通して

APDCAサイクルに基づいて授業改善を進めていく中で、生徒の実態から考えていくことの大切さを改めて感じた。「自己決定」や「自己調整」する機会を設定することで、支援が必要な生徒も徐々に学びに向かう姿が見られた。生徒が「自己決定」・「自己調整」するために、次のような選択肢を提供した。学び方の選択肢(ICTか教科書)、学習形態の選択肢(個人か協働)、学ぶ順番の選択肢(単元計画表の活用)、学ぶ場の選択肢(教室か学習コーナー)。このように、環境を整えれば生徒は学びだすことが分かった。教師の役目は、環境を整えることであり、生徒の学びにくさの原因は環境が原因であり、環境を改善する必要がある。

一方で、改めて学習意欲と学級集団づくりの大切さも必要であると実感した。現在、高西中学校では、右のようなピラミッドに授業改善のキーワードを整理し、「一人一人が輝く主体的な学び」の実現に向けて取り組んでいる。



## Action (改善)

社会科では、パフォーマンス課題があると、課題意識をもって学習に取り組めたため、継続して設定した。また、選択肢を増やすため、2単元同時に自由進度学習の計画を立案した。



# 府中市立府中学園の4つの取組

## I 「わからない」と言える、「あんしん」できる「つながり」

→ 自分の思いを伝えられる安心できる人的環境づくり



- ①特別活動の充実による安心できる集団づくり
- ・学級会を通してクラスの間関係を深める
  - ・行事を通して異年齢での人間関係をつくる

- ②安心できる仕掛け
- ・自分の思いを伝えやすい座席配置や班編成
  - ・関われる場を仕組む



あったかい言葉や行動の奨励 (掲示)

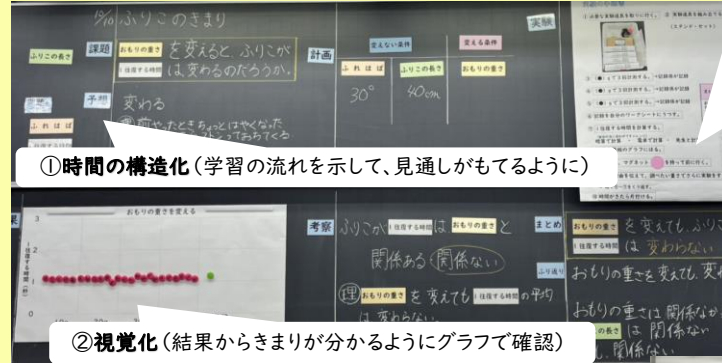
ペアやグループでの活動の設定



「わからない問題があった時に、やさしく教えてくれたのが嬉しかった。」と、子供たち同士のつながりが増えている。

## II わかった!できた!だから「たのしい」と思える授業づくり

→ 授業UDの視点での授業改善



①時間の構造化 (学習の流れを示して、見通しがもてるように)

②視覚化 (結果からきまりが分かるようにグラフで確認)

「実験手順がわかったから、自分たちで実験することができて楽しかった!」  
「手順書があるから友達と協力して実験ができた!」といきいきした姿を見ることができた。

③共有化 (ペア・グループ学習において、子供が見通しをもって、自分たちで学習を進めるための手順書を作成) →グループでの活動により子供たち同士での関わりが増えた。



## あったかい府中学園の実現を目指して

## III 自分の「かだいを理解 (メタ認知)」して「いきる力」をつける自立活動

→ 通級担当と学級担任との課題の共有  
特支担任と交流担任との課題の共有

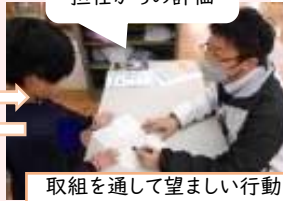
→ 自立活動の授業の共有

①連携の強化

日常で実践・担任からの評価



通級担当と一緒に目標の設定・振り返り



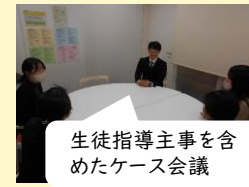
取組を通して望ましい行動が増えてきた。記録と振り返りから、自分自身の成長を視覚的に認識し、「これからも続けてがんばりたい。」と意欲を高めることができた。

②システム化  
自立活動の授業の様子をデータで記録し、だれでもアクセスできる



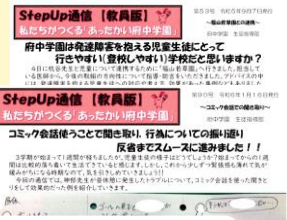
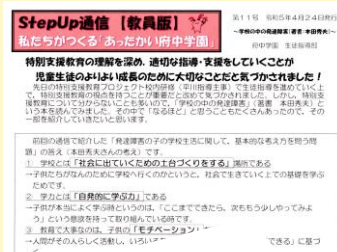
→ 生徒指導と特別支援教育がタッグを組む

- ①特別支援教育の視点をもち、生徒指導主事と特支Coが連携を図りながら取り組む指導の充実  
②特別支援教育で大切にしたいことを生徒指導通信でも発行・推進



生徒指導主事を含めたケース会議

チームで取り組むことで、1人1人に合わせた指導の具体が見付けられるようになった。



生徒指導と特別支援教育の両方の考え方を大切にして生徒指導主事が生徒指導通信で特別支援教育の推進



### 把握する【児童の実態】

- ・気になる児童の背景や要因を探る。
- ・気になる児童が主体的に学べる選択肢を用意する。



学年	学年	学年	学年
1	2	3	4
5	6	7	8
9	10	11	12

### 導入【つかむ】

- ・児童に問いをもたせるための問題の提示を工夫する。
- ・見通しをもたせるため、解決方法を共有する。

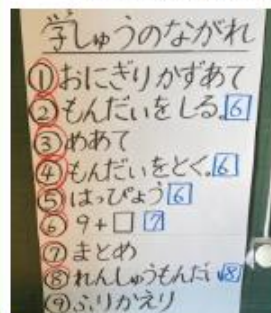


### 世羅小授業モデル

把握する	導入	展開	終末
世羅小授業モデルのこだわり			
<b>【児童の実態】</b> ・個別の指導計画作成 ・学力調査の分析	<b>【つかむ】</b> ・めあて、課題の設定 ・手立てを交流し、見通しを持つ。 ・立場を明確にする。	<b>【学び合う】</b> ・自力解決で考えたことを交流・発表する。 ・意見交換の時間を設ける。	<b>【できる、ふり返る】</b> ・適用題を解く。 ・本時の学びをまとめ、ふり返る。
対話による自己表現・他者受容			
ICT活用			
子どもの姿			
	○全員が書いたことを基に、表現し合っている。	○全員が自信を持って発言しようとしている。	○全員がふり返りを書いている。
『ほめて、認めて、励ます授業』			

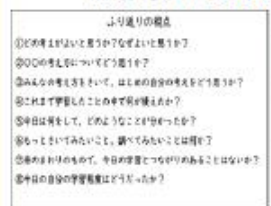
### 展開【学び合う】

- ・自分のペースで学ぶことができるように、学習の流れを示す。
- ・他者との考えの比較、児童の思考をゆさぶる発問等、練り合う場の設定を工夫する。



### 終末【できる、ふり返る】

- ・ふり返りの視点を児童と共有する。
- ・ふり返りを書く時間を確保し、思考過程や自分の学び方をふり返る。



### ほめて、認めて、励ます

- ・児童一人一人の変容を丁寧に受け止め、価値付けることで、「人を大切にできる心」「他者によりよくコミュニケーションをとれる児童」を育成する。
- ・学校教育全体で取り組み、授業づくりの土台とする。

#### ほめ言葉のシャワー



お互いのよさを認め合う

#### 価値語モデルのシャワー



お手本となる行動を学ぶ

#### 成長ノート



自分の成長をふり返る

#### 5分の1黒板



児童の関心・意欲を高める



